

「ポリファーマシー スクリーニングシート」を希望者に配付します

ポリファーマシーおよび**薬剤起因性老年症候群**を簡便にチェックできるツールとして、国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部（JH）事業でスクリーニングシートが作成されました（主任研究者：溝神 文博）。本シートは、国立長寿医療研究センターを含む国立高度専門医療研究センターにおいて、ポリファーマシー解消の推進を目的に病棟業務で既に使用されているものです。

臨床薬理学集中講座に参加された方を始め、臨床薬理研究を推進される皆さまに病棟業務として本シートをご利用いただき、使用実績や使用感などを調査する**観察研究**を現在、立案しております（概要は次ページをご参照下さい）。今後は、本シートの効果を検証するような**介入研究**など、ポリファーマシーに関する**多施設共同研究の実施**に繋がりたいと考えています。

本シートの配付を希望される方は、お気軽にご連絡ください。

【連絡先】 keisuke@ncgg.go.jp

【JH事業の詳細】 https://www.japanhealth.jp/project/junior_researcher/2021/post_6.html

（代表：国立長寿医療研究センター 先端医療開発推進センター 鈴木 啓介）

持参薬鑑別評価シート	
ID: _____	名前: _____ 病棟: _____ 診療科: _____
入院目的	<input type="radio"/> 1週間以内など短期入院 該当する場合は取扱は 黒い太線 までで終了 <input type="radio"/> 1週間以上の場合、薬剤起因性老年症候群評価シートを確認
副作用歴	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり () <input type="radio"/> その症状は、薬の副作用として今後も継続的にありますか? ()
アレルギー歴	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり ()
一般用医薬品・サブ剤	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり ()
お薬手帳の活用	お薬手帳は使用されていますか? <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 使用あり (持参) <input type="radio"/> 使用あり (未持参)
薬剤管理方法	お薬の管理方法で工夫されている方法がありますか? (複数選択可) <input type="radio"/> 薬袋 (PTP) <input type="radio"/> 1包化 <input type="radio"/> BOX・カレンダー <input type="radio"/> その他 () お薬は誰が管理されていますか?

副作用（薬剤起因性老年症候群）評価シート	
「今までに服用していた薬に関する質問です。パウチの絵の症状が直近6ヶ月間でありましたか?」と聞いてください。	
症状がない場合:「すべての症状なし」にシ点を入れ終了 症状がある場合: 症状のある部分のはいにシ点を入れ、追加の質問があれば行う。 最後に太枠内の新しく症状に追加された薬があるか確認してください。	
<input type="checkbox"/> すべての症状なし <input type="checkbox"/> 本人に聞き取りすることができない (認知症や意識障害など)	
①日中の眠気が継続してありますか? <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	はいの場合 1日の睡眠時間を教えて下さい _____ 時間 中途覚醒 (途中で目覚める) _____ 回数
②ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがありますか? <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	
③周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか? <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	
④食欲が低下したと感じますか? <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	



■ 多施設共同前向き観察研究の概要

課題名：ポリファーマシースクリーニングシートの有用性評価に関する研究

- P 入院患者に対し、薬剤師さんが持参薬評価を実施
- E ポリファーマシースクリーニングシートを使用
- C 既存の薬剤師初回面談シートを使用
- O 主要評価項目：ポリファーマシーの問題点の検出率
(薬物有害事象、服薬困難)

副次評価項目：薬剤師の業務量変化、アンケート調査

目標症例数：観察対象薬剤師 16名（8施設の場合）、250症例

研究期間：2023年1月1日～2024年3月31日

調査対象期間：2023年6月1日～2023年9月30日